

特集 建設会社として地震と向き合う③

首都直下型地震に備えて 地域と協働していく (ステークホルダーダイアログ)

戸田建設は本社ビルのある東京都中央区京橋一丁目地区で、住民の皆さんや行政と一体となって防災の取り組みを進めてきました。今回は関連する地域の人々に集まっていただき、東京都心における今後の防災のありかたなどについて意見を交わしました。



戸田建設
本社 総務部
主任

佐藤 洋人(同会進行)

警視庁中央警察署
警備課
主任

庄司 巡査部長

警視庁中央警察署
警備課
係長

岸本 警部補

地域ぐるみの防災活動に取り組む

——京橋一丁目地区では、戸田建設をはじめとする企業と住民の皆さんと一緒に「京橋一丁目災害協議会」という組織をつくり、年1回の防災訓練などの活動を続けています。

大塚(京橋一丁目東町会) この活動が始まったのは、2005年のことですね。最近、東日本大震災を契機に、中央区内でも町会と企業が参加した同じような組織を立ち上げようという試みが広がっているようです。しかし、私たちが始めた時には、誰もそんなことは考えず、ほかに例もありませんでした。それをもう8年も続けているのですから、これはとても凄いことだと思います。

高橋(中央区) この「京橋一丁目災害協議会」では、訓練ばかりでなく、関連す

る担当者が事前に集まって何度も打ち合わせを重ねていますね。

大友(戸田建設) 確かに防災訓練はわずか1日ですが、それを実施するために半年くらい前から集まって打ち合わせをしています。訓練はもちろんのこと、そこで皆さんが集まって地域のさまざまな情報を交換することも意義があるのではないのでしょうか。

高橋 そういう機会を通じて地域の皆さんが顔見知りになっていけば、いざという災害の時にも非常に役立つはずです。

関口(京橋一丁目東町会) もう8年もお付き合いですから、「この相談ならあの人」というように困った時にはすぐに顔が思い浮かぶのです。今回の大震

災でも、戸田建設の人に早急に連絡をとり、地域のいろいろな情報を教えてもらいました。

大塚 東京都では最近、「東京防災隣組」という制度をつくったそうです。災害の時に地域でお互いに助け合おうというしくみですが、その第1回目の認定団体として私たちの「京橋一丁目災害協議会」が選ばれました。「隣組」なんて久しぶりに聞く懐かしい言葉ですが、やはり地域の「和」は大切にしたいですね。

高橋 この「東京防災隣組」に選定されたように、「京橋一丁目災害協議会」の活動は、行政からも非常に注目されています。今後もぜひ継続して進めていってほしいですね。

首都直下型地震を想定した新たな対策

——首都直下型地震も予測される今後、どのような対策を進めていくべきなのでしょうか。

高橋 ひとつ大きな課題は、帰宅困難者の対策だと思いますね。中央区では現在、新たに整備する区立施設の一部を帰宅困難者に開放するなどの対策を進めています。

早川(中央区) 震災時の帰宅困難者については、まず自分たちがいる事業所内に可能なかぎり留まるというのが基本だと思います。しかし、家庭の事情

などでどうしても帰宅したいという人もいます。そのような人については、優先順位を決めて集団で帰宅していただきたいと考えています。

岸本(中央警察署) 今回の大震災では、徒歩で帰宅する人たちまでもが車道にあふれ出て、全く予想していなかったような道路渋滞となりました。そこで警視庁では、大震災(震度6弱)が発生した場合の交通規制を新しく作り直しました。今後は、こうした対策の告知活動にも力を入れて取り組んでいき

たいと思っています。

庄司(中央警察署) 人命救助や災害復旧の緊急自動車を円滑に通すためには、車の総数を減らして道路を確保することがなによりも重要なのです。

久貝(京橋消防署) 今回の大震災では、都内で34件の火災が発生しています。それらを分析すると、電気ストーブなどの電気機器によるものが多く、ストーブの上にもものが落下したり家具が転倒したりして火災となったケースもあります。このようなデータを参考に



京橋一丁目
東町会
役員
関口 直一氏

京橋一丁目
東町会
会長
大塚 一雄氏

中央区
総務部
防災課長
高橋 和義氏

中央区
総務部 防災課
普及係長
早川 紀行氏

東京消防庁
京橋消防署
予防課長 消防司令長
久員 壽之氏

東京消防庁 京橋消防署
予防課 自衛消防担当係長
消防司令
神田 美紀氏

戸田建設
執行役員
本社 総務部長
大友 敏弘

戸田建設
本社 総務部
課長
白井 光一

【ダイアログ概要】日程：2012年6月6日(水) 場所：戸田建設本社会議室

して、家庭やオフィスでの対策を見直してほしいですね。

神田(京橋消防署) 火災対策については、もちろん消火などの訓練は大切ですが、それ以前に火事を起こさない

ということが最重要となります。

久員 それからもうひとつ、震災への心得としては、自宅の周辺や、会社から徒歩で帰宅する場合の経路にかかわる火災の延焼危険地域を調べて把握してお

くことも重要です。

白井(戸田建設) それは貴重な意見ですね。早速、当社でも現在想定している集団帰宅ルートについて調べてみることにします。

さらなる災害に備え、地域との連携を強化

——地域における今後の災害対策について意見をお聞きしたいと思います。

高橋 中央区としては、今後も防災について住民の皆さんと密接な協力関係を築くとともに、企業との連携を強化していきたいと考えています。昨年は、戸田建設をはじめとする3つの企業と、地域住民の救助活動や帰宅困難者の支援などの災害時協力協定を結びました。

関口 町会としての課題をあげるなら、周辺の町会と一緒にやっている防災組織と、この「京橋一丁目災害協議会」をいかに連携させていくかでしょうか。

それから今後ぜひ考えていかなければならないのは、夜間に大地震が発生した場合の対策ですね。

岸本 昨年の大地震は金曜日の夕方でしたが、実は震災の発生は夜間や土日というケースが8割を超えています。

大塚 この地区は住民の平均年齢が非常に高く、夜間は高齢者ばかりになってしまうのです。

高橋 確かに今後は、このような地域の特性に合わせたよりきめ細かい対策を講じていくことが重要ですね。

白井 今話題に出た夜間の災害対策に

ついても、当社として今後さらに検討していきたいと思います。この対策について次回の打ち合わせでもっと詰めて話し合しましょう。

大塚 災害の備えは、これで十分ということはありません。今後も企業や行政の方たちと一緒に地域での災害対策を改善していきたいですね。

大友 私たち戸田建設も、この京橋一丁目地区の一員として、皆さんと力を合わせた活動を進めていきたいと考えています。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。

京橋地域総合防災訓練

「京橋一丁目災害協議会」では、毎年9月に総合防災訓練を行っています。第7回目となった2011年は、戸田建設の社員をはじめとする約3千名が参加。震度6強の直下型地震を想定して、地区の各企業や周辺の町会で震災訓練や火災訓練を実施しました。

- ① 震災時の怪我人を想定した応急救護の訓練
- ② 京橋消防署の指導によるAEDの操作訓練
- ③ 審査会で準優勝を獲得した戸田建設自衛消防隊
- ④ 東京消防庁の特別救助隊による屋上降下訓練
- ⑤ 防災リュックを背負って歩く集団帰宅訓練
- ⑥ 煙体験ハウスで火災時の煙の怖さを疑似体験

